



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」

令和3年(2021年)5月28日

国立二小だより

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

未来に残そう二小の桜

校長 小林 理人

5月の校庭を彩ったサツキやツツジに代わり、淡い赤や青の紫陽花が色付き始めています。早いもので1学期も半ばを過ぎ、梅雨の季節を迎えます。

新しい学級にもすっかり慣れた子供たちは校庭で元気に活動をしています。池やビオトープ、草むらの虫探しに熱中したり、見つけた梅の実を宝物のように持ち帰ったりする子供たちを見ていると、心が温かくなります。

創立から70年間、多くの職員や保護者、地域の方が子供たちを思い、大切にしてきた二小の豊かな自然が、子供たちの心を優しく豊かに育ててくれています。

先日、高学年の仲間入りをした5年生から、高学年らしいうれしい報告がありました。それは、二小のみんなが大切にしている桜についての意見です。

5年生は、二松タイム(総合的な学習の時間)の学習で、校庭に植えられた草木について調べ、二小の校庭には様々な種類の桜の木があることを知りました。そして、校舎の建て替えに伴い、新校舎が建てられる場所にある桜の木のことを心配し、次のような思いや意見を手紙等にまとめ、報告してくれました。その中のいくつかを紹介します。



にさくらちゃん
5年生児童の作品

- ◇私たちは二小の桜をとっても誇りに思っています。
- ◇二小に入学する子供たちは桜を見て安心して元気に学校に通えるようになります。
- ◇満開の桜を見ると1年間頑張ろうと思えます。満開の桜のトンネルを色々な人に見てもらいたい。
- ◇校舎の歌詞にもある二小の桜は二小のシンボルでもあり、二小の自慢の一つです。
- ◇桜はこれまで多くの人が守り育ててきた二小の伝統、よさの一つです。未来にしっかりつなげていきたいです。

また、その報告には「桜を残したい」という思いや意見だけではなく、二小にある桜の種類や、桜を残す方法なども詳しく調べ、下のようによまとめてありました。自分たちの思いや願いを伝えるために、それを実現する理由や具体的な方法についても調べたり、考えたりしました。

桜を残すために私達は色々な方法を考えました。

一つ目は桜の枝を切って小さな鉢に接ぎ木をする方法です。二つ目は屋上にある桜を大きな鉢に植え替えて新しい校舎の邪魔にならない所に接ぎ木をする方法です。このようにいろいろな方法で桜を残したいです。

5年生の子供たちが調べたように、二小には様々な種類の桜があります。そして、その桜を守り育てるために多くの方が様々な形で関わってきました。

来年度から始まる校舎の建て替えの工事に伴い、伐採されてしまう桜を残したいという気持ちは5年生だけではなく、子供たちや二小の桜を守り育てた多くの人たちの願いでもあります。

そこで、私は5年生の思いや願いを実現するために、国立市役所の桜を保護する担当者の方や、地域の桜守の方にその思いや願いを伝え、二小の桜を残す取組への協力を求めることを提案しました。二小の桜を未来に残すための活動が子供たちの提案によって始まります。

今年度は次年度から始まる工事に向けて、新しい校舎に設置するものや、使い方、色や形など具体的な計画や準備を進めていきます。5年生の取組もその一つです。

今後も委員会活動や二松タイムの学習を中心に、具体的な計画や準備に子供たちが直接かかわる活動を積極的に取り入れていきます。そして、未来の地域を担う子供たちの力や思いをできる限り活かし、新しい学校が子供たちの自慢や誇りになるように、計画や準備を子供たちとともに進めます。